

【 巻 頭 言 】

年頭のご挨拶

京都工芸繊維大学 猿山 靖夫

昨年の熱測定討論会中の総会で会長を仰せつかりました、京都工芸繊維大学の猿山です。微力ではありますが、学会の発展に貢献できればと思います。よろしくお願い申し上げます。

新しい年を迎え、会員各位にはそれぞれの抱負をお持ちのことと存じます。各会員がその抱負を実現するための支援をすることが、学会の運営で最も大切であると考えています。しかしながら、社会の状況に目を向けますと、昨年の東日本大震災と原子力発電所の大事故、長引く世界的な経済の低迷など、非常に厳しいと言わざるを得ません。このような状況の中で、各会員の活動を支援し、学会を発展させていくためには、皆様からのご助言とご協力が不可欠です。是非幹事会に皆様のご意見をお聞かせください。

幹事会では会員からのご意見あるいはご連絡の窓口として、「ご意見ボックス」という e-mail のメールボックスを設けることに致しました。幹事会のページをご覧ください。これまでも、会誌の「会員のページ」への投稿、幹事への個人的な連絡、事務局宛の通知などでご意見を伺う機会はありませんでしたが、e-mail の利用で会員と幹事会がより近い関係になれることを期待しています。

昨年は厳しい社会状況の中で、第 6 回国際・第 8 回日中ジョイントシンポジウム (CATS2011) を開催致しました。参加者と世話人のご協力とご努力によって盛会となり、海外に熱測定学会のアクティビティが健在であることを示すことができました。CATS2011 の記念論文集を会誌の特別号として発行致しますが、今回初めて電子版での出版となります。閲覧方法などはあらためてお知らせ致します。電子出版は、今後避けて通ることのできない流れになると予想されますので、機会ある毎に経験を重ねていきたいと考えています。

今年の 8 月には第 48 回熱測定討論会と第 15 回 ICTAC を近畿大学で同時開催致します。ICTAC の日本での開催は 35 年ぶりになります。CATS よりも更に広い地域からの参加が期待されます。3.11 以後も変わらぬ日本の研究のレベルとアクティビティを世界に示すことは、私達自身がそれを確認することでもあります。既に参加・発表の受付を開始しておりますので、是非ご登録ください。熱測定討論会と ICTAC の独自のプログラムに加えて、両大会のジョイントセッションを設けますので、特に若手の方々に海

外の同世代の研究者との交流の場にして頂きたいと思えます。海外にお知り合いの研究者がいらっしゃる場合には、是非ご参加をお勧め頂きますよう、ご協力のほどよろしくお願い致します。



会誌を本号から A4 版にするのは、昨年の討論会における総会でご了承頂きましたが、実際に手にされた印象はいかがでしょうか。ご意見ボックスで、感想などをお聞かせください。会誌の体裁だけでなく、執筆にテンプレートを使用するなど、編集にも新しい方法を取り入れています。この新しい試みにより、著者自身が印刷体裁のチェックがしやすくなると共に、編集作業の軽減による経費の節減にもつながるといった効果を期待しています。

会誌の発行を年間 4 冊とさせて頂くことも、総会でご了承頂きました。掲載記事の質と量については維持・発展させて参りますが、いろいろなイベントの案内、通知などのタイミングが、以前よりも合いにくくなるのは避けられません。今後は e-mail および web ページの併用により、この問題を解消して参ります。添付ファイルによる申込様式の送受信、web ページへの直接書込による迅速な処理などのメリットもあります。

2013 年は学会設立 40 周年、2014 年は討論会第 50 回にあたります。これらを記念する事業を行うべく、記念事業準備委員会を設立致します。準備の進捗状況は機会ある毎にお知らせ致しますが、会員の皆様にも記念事業へのご協力をよろしくお願い致します。

e-mail によるご意見ボックス、電子出版、テンプレートによる会誌編集、e-mail と web による迅速な案内・通知など、学会設立あるは討論会発足当時には考えられなかったことが現実になりました。これらを利用した、より多様で質の高い会員活動支援のためには、繰り返しになりますが、皆様からのご意見が大切です。若手会員、学生会員の方々も、ご遠慮なくご意見ボックスを利用いただき、ご自分の声が学会の実際のアクションとなる手応えを実感してください。お待ちしております。